様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ００４５４

研究課題名（和文）ヨーロッパにおける近代的書物形態の成立と発展のプロセスに関する研究

研究課題名（英文）Study on the formation and the development process of the modern-book form in Europe

研究代表者
雪嶋　宏一（YUKISHIMA, KOICHI）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：００５０７９５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　16世紀に印刷本は標題紙、目次、索引、頁付け等の要素を備えた近代的書物形態へと発展した。これらの要素のうち研究が進んでいなかった頁付け印刷と近代的標題紙の登場を、16世紀印刷本書誌を活用して、印刷中心地における頁付けと標題紙の推移を調査して、その発展過程を解明した。
　頁付け印刷は1499年にヴェネツィアで始まり、1515年以降バーゼル、リヨン、ケルンでエラスムス等の人文主義書と西洋古典書に行われた。近代的標題紙は1519年にアントワープで登場し、バーゼルが次いだ。世紀後半にジュネーヴで宗教改革書、ケルンとアントワープで対抗宗教改革書に頁付けされ、世紀末にはパリ、ロンドンでも盛んになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　16世紀には宗教改革と対抗宗教改革があり、特に宗教改革において書物が大きな役割を果たしたことが知られている。一方、人文主義はルネサンスの学芸・文化の中心にあり、その発展と普及に大きな役割を果たした。近代的書物形態の重要な要素である頁付けと近代的標題紙が16世紀前半に人文主義書、西洋古典書を中心に行われていたことが明らかになり、人文主義が書物発展過程において重要な役割を果たしていたことが判明した。

研究成果の概要（英文）：In the 16th century, printed books evolved into the modern-book form with some elements such as title page, table of contents, indices, and pagination. Among these elements, I researched on the development process of pagination and the appearance of modern title page, which had not been studied. I investigated how pagination began and developed in the centers of printing in the 16th century using some bibliographies of printed books, and I clarified the development process of printed pagination and modern title page.
Printed pagination began in Venice in 1499, and since 1515 it has been carried out in Basel, Lyon, and Cologne in humanist books such as Erasmus and Greek-Roman classics. The modern title page appeared in Antwerp in 1519, followed by Basel. In the latter half of the 16th century, books on the Reformation were paginated in Geneva, and Catholic books were paginated in Antwerp. And pagination became popular in Paris and London in the end of 16th century.

研究分野：図書館情報学

キーワード：ページ付け印刷　標題紙　16世紀印刷本　人文主義　西洋古典　ルネサンス　西洋書誌学　書物学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近代的な書物の構成要素は、表題紙（title-page）、刊記（imprint）、目次（contents）、本文（text）、索引（index）、ページ付け（pagination）等である。これらの要素は、15 世紀末までに活版印刷本の中で個々別々に登場したが、それらが 1 冊の本の各部分を構成するようになったのは 16 世紀以降である。これらの要素によって成立した書物を近代的書物形態と呼ぶことにする。しかし、近代的書物形態がいつ、どのような過程を経て成立したのかという問題についてはこれまでほとんど研究されておらず、特にページ付けの発展過程については実証的な研究は発表されていなかった。ページ付けの発展と普及に関する見解としては、イギリスのエズデイル（Esdaile, A.J.）は、ページ付けの普及をおおざっぱに 16 世紀後半とみなした。マッケロー（McKerrow, R.B.）は、葉付け（foliation）からページ付けの転換を 16 世紀末と考えた。一方、フランスのフェーヴル（Fevbre, L.）とマルタン（Martin, H.J.）は、ページ付けが 16 世紀の四分の二期に一般化したとした。イギリスのスミス（Smith, M.M.）は、ケンブリッジ大学図書館所蔵の 16 世紀ヨーロッパ大陸印刷本目録をサンプル調査して、ページ付けの普及を 1530 年代には 55%、1560 年代には約 60%とみなした。しかし、これらの見解は確かな調査に基づいた実証的な研究ではなかった。また、ページ付けの成立と発展に関係して、近代的標題紙（著者、書名、出版地、出版者、出版年の情報が記載された標題紙）と奥付（colophon）、索引、目次がどのように関係していたのかという点についてもこれまで研究されたことはなかった。

2. 研究の目的

本研究は、このような近代的書物形態がいつ、どこで、どのように成立し、発展したのかというプロセスを解明して、近代的な書物の成立という画期を確定するために、実証的研究が最も遅れているページ付け印刷の開始と発展過程を実証的なデータに基づいて明らかにすることを目的とする。そして、ページ付け印刷の発展は 16 世紀のどのような文化的背景と関連があるのかを考察する。さらに、ページ付け印刷と近代的標題紙と奥付がどのような関係を有していたのかという点についても明らかにしていく。

3. 研究の方法

16 世紀のページ付け印刷本のデータはこれまで収集されたことがない。そのため、ヨーロッパ各地で構築されている 16 世紀ヨーロッパ印刷本の書誌データベースである VD 16（ドイツ語圏）、EDIT 16（イタリア）、USTC（フランス、低地諸地方）、ESTC（英国）、e-rara（スイス、ドイツ語圏）、Lyon 15-16（リヨン）、GLN 15-16（スイス・フランス語圏ジュネーヴ、ローザンヌ、ニューシャテル）を利用して、16 世紀ヨーロッパの印刷出版中心地で刊行された印刷本を編年順に検索して、ページ付け印刷本を抽出する。ただし、ページ付けの有無、詳細を示す対照事項（collation）は、EDIT 16、USTC、ESTC では不十分な記述が少なくないため、各地で編纂されている出版地別の 16 世紀印刷本書誌
や各国の国立図書館の OPAC 等を参照して、詳細を確認してデータを抽出した。そして、出版中心地の 1 年毎の出版総数とページ付け印刷本の数量と比率を算定した。また、16 世紀印刷本のページ付けの詳細および標題紙や奥付の状態はデータベースや書誌では実際の状態を知ることができない場合が大半である。そのため、これらの実際を知るために、イタリア、スイス、イギリス、フランスの国立図書館、大学図書館、公共図書館に赴いて現物調査を行い、細部を確認した。

４．研究成果

2017 年度は近代的書物形態の形成の中で研究が遅れているページ付けの起源とその発展について研究を行い、ページ付けを初めて採用したヴェネツィアのアルド・マヌーツィオ（Manuzio, Aldo）のページ付け本 17 点とページが手書きされた印刷本と、彼の後にページ付け本を印刷したフィレンツェのジュンタによる本をミラノのアンブロ ジアーナ図書館と国立ブライデンセ図書館、フィレンツェの国立中央図書館、マルチェリアーナ図書館で現物調査を行った。その結果、アルドのページ付けが A,B,C の３タイプに分かれることを発見した。A タイプはページ番号が表ページではヘッドラインの右上端、裏ページでは左上端であり、B タイプは表ページも裏 ページもヘッドライン中央、C タイプは表ページ、裏ページともヘッドライン右端に印刷されていた。アルドはこれらのタイプを 1508 年までに試行して、最終的 に A タイプを採用した。アルドがページ付けを行った目的は、最初は索引のためであったが、その後の 6 点は目次のためであり、残りの 10 点には索引も目次も付け ず、ページ番号を有効に利用しなかった。アルドの後にページ付けを行ったフィレンツェのジュンタは 1514 年に C タイプのページ付けを行い、続いてバーゼルのフローベンは 1515 年に A タイプのページ付 けを行っており、アルドの影響を受けていたことが判明した。

この研究と同時に 16 世紀印刷本ベータベースにより、16 世紀印刷本のページ付けについて調査を行い、1501－1540 年間では毎年刊行される印刷本の書誌データを悉皆調査してページ付け印刷本を抽出した。1541-1600 年間については、当初は 5 年ごと（０年と 5 年）のゼルやケルンを中心としたライン川流域の諸都市でページ付け本の出版が盛んであり、続いてリヨン、パリ、アントワープでページ付け本が印刷されたが、イタリアやドイツ南部・東部ではページ付け本の印刷は低調であった。16 世紀中にはページ付け本の印刷 は地域差が大きく、一様ではないことが明らかになった。

2018 年度は、バーゼルにおいてページ付け印刷本がどのように発展したのかを知るため、VD 16（ドイツ語圏 16 世紀印刷本）と e-rara（スイス刊行印刷本）の データベースを利用して 1550 年までの書誌データ収集を完了させて、16 世紀前半にどの印刷業者がどのようにページ付けを行ったのかを統計的に把握した。そして、ページ付けを盛んに行った印刷業者フローベン（Froben, Johann）やクラタンデル（Cratander, Andreas)）等、またあまり行わなかったペトリ（Petri, Adam）やクリオ（Curio, Valentin）の初期のページ付け本の現物調査を 8 月末～9 月初 めにバーゼル大学図書館とチューリッヒ中央図書館で行った。

その結果、バーゼルにおけるページ付け印刷は、ページ付け本印刷を始めたヴェネツィアのアルド・マヌーツィオによる A タイプ（表面でヘッドライン右端、 裏面でヘッドライン左端、2017 年度の研究成果）のページ番号付けが広く採用され、ページ付け本の印刷はローマン体あるいはイタリック体の活字でほとんどが 印刷され、ゴシック体活字による印刷は極めて稀であったことが判明した。ページ付け本は人文主義者の著作とギリシア・ローマ古典が大半であった。これによってページ付けは、本の内容と活字の種類との間に密接な関連があること が明らかになった。また、フローベンやクリオは最初からページ付け技術に優れ、クラタンデルは未熟であったことも判明した。バーゼルにおけるページ付け本印刷が盛んになった理由は、人文主義書を刊行する多くの印刷業者の間でページ付け印刷技術が広まったことであった。一方、バーゼルに地理的に近く、ページ付け本印刷の開始が同時期であったシュトラスブルクでは、バーゼルほどページ付けは発展しなかった。その原因は ページ付け本を印刷する業者が限定されており、印刷業者間でその技術が広まらなかったことと、ゴシック体活字による法学書・神学書の刊行が多く、人文主義 書の刊行が少なかったことであった。

2019 年度は本務校から特別研究期間を取得して、4 月～9 月（一時帰国あり）は英国のロンドンに滞在し、ロンドン大学ウォーバーグ研究所で訪問学者として研 究に従事した。10 月～3 月まではフランスのリヨンに滞在して、リヨン大学情報図書館学高等研究院で訪問学者として研究を行った。英国では英国図書館、オックスフォード大学ウェストン図書館、ケンブリッジ大学図書館を利用し、フランスではリヨン公共図書館とパリのフランス国立図書館で 16 世紀前半にパリとリヨンで出版されたページ付け印刷本の調査を行った。ロンドンでの調査ではさらにドイツ、低地諸地方（オランダ、ベルギー）、スイス、イタリアで 16 世紀に刊行 されたページ付け印刷本の調査を行った。特に、データベースではページ付け本と判断された 16 世紀前半ロンドン刊行書を実際に調査したが、それらにはほとんどにページ付けがなく、目録データが間違っていることが判明した。その結果、ロンドンでは１６世紀前半にはページ付けはほとんど行われていなかったことが確認できた。

リヨン滞在時にはリヨン公共図書館での調査によって、フランスにおけるページ付け印刷の開始と発展の過程を解明した。フランス最初のページ付け本はリヨンで 1510/11 年刊行されたローマ古典 （ヴェネツィアのアルド版の海賊版）であり、パリ最初のページ付け本は 1519 年に刊行されたフッテン（Hutten, Ulrich von）の著作であった。これらは 2017 年に行った調査では発見できなかっ たもので、ロンドン、リヨンでの現物調査で初めて発見できた。また、ジュネーヴのページ付け調査でカルヴァン（Calvin, Jean）著作にページ付けが行われていたことが判明した。英国のページ付け印刷はロンドンで 1531 年に始まったが、データベース調査でページ付け本とみなした 16 世紀前半ロンドン出版の多くが、現物調査を経てペー ジ付け本ではないことを確認し、ロンドンのページ付けの発達は 16 世紀後半以降であったことが判明した。ロンドンとリヨンで研究発表を行った。また、リヨン滞在時にイタリアのフィレンツェ国立図書館、ボローニャ大学図書館、ボローニャ中央図書館アルキジンナジオ、ラヴェンナのクラセンセ図書館でボローニャの 16 世紀印刷本の調査も併せて行った。ラヴェンナでイタリアの研究者と研究打ち合わせを行い、ボローニャ大学から論文の刊行が許可された。

2020 年度は新型コロナウィルス感染拡大のため、ヨーロッパでの現地調査ができなかったが、目標としていたジュネーヴ、ケルン、アントワープにおける 16 世 紀の近代的書物形態の発展プロセスについては、16 世紀印刷本の書誌およびデータベースを活用して調査を行い、それぞれの都市におけるページ付け印刷 の開始と発展プロセス、近代的標題紙の成立と奥付との関係について一定の結論を得ることができた。

まず、前年度に続いてジュネーヴの 1570 年代以降の近代的書物形態の発展を調査して、カルヴァンの著作に代わって人文主義文献のページ付け印刷の発展に よって、バーゼルを抜いて、スイス第 1 の出版都市となり、近代的書物形態の発展の中心地のひとつになっていたことが明らかになった。

ケルンにおける近代的書物形態の発展について研究を進め、ケルンにおけるページ付けの開始が聖バルバラ修道院内印刷所で 1516 年に行われ、バーゼルからの 影響により人文主義文献のページ付け印刷が進められ、16 世紀後半にはその比率が 50%以上を維持した。ページ付け本の著者は、エラスムス、クレナール、アグリコラ、ヴァッラ等人文主義者が中心であるが、ディオニュシウス、ヴィツェル、ルペルトゥス、エック等のカトリック神学者も少なくなく、カトリック司教座 都市であったケルンの特徴を示していた。

アントワープにおける近代的書物形態発展プロセスの研究では、1519 年にページ付け印刷と近代的標題紙が同時に登場したことが明らかで、バーゼルより早い 標題紙の登場を確認した。ページ付け印刷は、16 世紀後半にプランタン印刷所が登場して急速に発展した。カトリック文献のページ付けが主流であった。しかし、ページ付けは都市内では面的な拡大がなく、比率も

50%を超えなかった。一方、コロフォンは消滅せず、バーゼル、リヨン、ケルンとは異なる発展の傾向が 観察された。

4 年間の研究から、ページ付け印刷と近代的標題紙の登場および発展は、16 世紀のエラスムス等の人文主義者の著作の出版と密接な関係がある。バーゼルから直接影響を受けたアントワープ、ケルン、パリ、リヨンでも同様にページ付けと近代的標題紙が早期に登場した。特に、バーゼルとリヨンではページ付けの発展が大変顕著であり、両都市では印刷本の 60〜80%がページ付け本であり、ローマン体とイタリック体で多くの書物が印刷され、ページ番号にはアラビア数字が早くから使用されていた。また、バーゼルの場合はプロテスタント圏、リヨンの場合はカトリック圏にページ付け本を普及させる供給源になったと考えられる。そして、16 世紀後半にページ付けが発展したケルンとアントワープでは主にカトリック書にページ付けが行われた。同時期にページ付けが発展したジュネーヴではカルヴァンの一連の著作（プロテスタント書）にページ付けが盛んに行われていた。つまり、16 世紀後半にはページ付け印刷本は宗教改革と対抗宗教改革との両派から共に出版されて、ページ付け本が両派に普及したことは重要である。なお、アントワープにおける近代的標題紙の採用が今回調査した事例としては非常に早いという事実については、その文化的背景の研究が必要である。

一方、ケルン以外のドイツの印刷出版中心地ではページ付けはあまり発展せず、ページ番号もローマ数字で付与される例が多く、ゴシック体活字のセット（フォント）にアラビア数字が備わっていなかった可能性が十分考えられる。16 世紀ドイツ最大の出版中心地であったヴィッテンベルクではルター等のプロテスタント書が盛んに印刷され、ドイツ中に販売していたが、近代的書物形態の発展は遅かった。つまり、ゴシック体活字とページ付けは有効な関係性を持っていなかった。一方、近代的標題紙とページ付けが 15 世紀にすでに登場していたヴェネツィアでは、それらが有機的に発展するのは 16 世紀後半から末まで待たなくてはならない。16 世紀中葉のフィレンツェを除いて、イタリアの都市ではページ付け印刷は全体的に低調であり、近代的書物形態の発展も遅れていたといえよう。人文主義が誕生したイタリアではページ付け印刷があまり発展しなかった理由についてはさらなる研究が必要である。

以上のように、ページ付け印刷の発展は 16 世紀前半からばーゼるやリヨンで局地的に広まったが、16 世紀後半に至ってページ付けは宗教改革、対抗宗教改革の地方で共に盛んにおこなわれたが、ヨーロッパ全域に普及したということはできない。一方、近代的標題紙とページ付けを含んだ近代的書物形態は、1520 年頃から始まったが、16 世紀末に至ってもまだヨーロッパ全域に普及したとは言うことはできず、スイス、フランス、ライン川流域都市および低地諸地方を中心に発展していったことが判明した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 68
２．論文標題 フランスにおけるページ付け印刷の開始と発展について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 学術研究：人文科学・社会科学編	６．最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yukishima, Koichi	４．巻 1
２．論文標題 Gessner’s Bibliotheca universalis and the Aldine Press	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Conrad Gessner (1516-1565). Die Renaissance der Wissenschaften / The Renaissance of Learning	６．最初と最後の頁 29～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9783110499056-003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 YUKISHIMA, Koichi	４．巻 9 (1)
２．論文標題 Pagination printed by Aldus Manutius	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Bibliothecae	６．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6092/issn.2283-9364/11024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 66
２．論文標題 16世紀前半バーゼルにおけるページ付けの発展プロセスついて	５．発行年 2018年
３．雑誌名 第66回日本図書館情報学会研究大会発表論文集	６．最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 67
２．論文標題 16世紀前半バーゼルにおける近代的書物形態の発展について：ページ付く本の発展プロセスを中心にして	５．発行年 2019年
３．雑誌名 学術研究（人文科学・社会科学編）	６．最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 15
２．論文標題 ページ付けの起源とアルド・マヌーツィオ：新しいぶどう酒は新しい革袋に入れ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 書物学	６．最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 66
２．論文標題 西洋におけるページ付けの起源と発展過程について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 学術研究：人文科学・社会科学編	６．最初と最後の頁 ６７－８３
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 ６５
２．論文標題 １５２５年バーゼル版プリニウス『博物誌』について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 早稲田大学図書館紀要	６．最初と最後の頁 １－２９
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 65
２．論文標題 １６世紀印刷本におけるページ付けの発展過程に関する研究	５．発行年 2017年
３．雑誌名 第６５回日本図書館情報学会研究大会発表論文集	６．最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 69
２．論文標題 16世紀ケルンにおけるページ付け印刷の発展について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 学術研究：人文科学・社会科学編	６．最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 2021
２．論文標題 16世紀アントワープにおける近代的書物形態の発展について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 2021年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集	６．最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 雪嶋宏一	４．巻 2020
２．論文標題 16世紀中葉ジュネーヴにおけるページ付け印刷の発展について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 2020年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集	６．最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 雪嶋宏一	4．巻 68
2．論文標題 16世紀ケルンにおけるページ付け印刷の発展について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 第68回日本図書館情報学会研究大会発表論文集	6．最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 YUKISHIMA, Koichi
2．発表標題 The origin of pagination: a contribution of Aldus Manutius.
3．学会等名 The first meeting of the Summer term meetings the Book and Print Initiative Research Group, The Warburg Institute, London（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 YUKISHIMA, Koichi
2．発表標題 The beginning and development of pagination in France.
3．学会等名 Winter School, Enssib, Lyon（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 雪嶋宏一
2．発表標題 16世紀中葉ジュネーヴにおけるページ付け印刷の発展について
3．学会等名 日本図書館情報学会2020年度春季研究集会
4．発表年 2020年

１．発表者名 雪嶋宏一
２．発表標題 16世紀前半バーゼルにおけるページ付けの発展プロセスついて
３．学会等名 日本図書館情報学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 雪嶋宏一
２．発表標題 １６世紀印刷本におけるページ付けの発展過程に関する研究
３．学会等名 第６５回日本図書館情報学会研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yukishima, Koichi
２．発表標題 The origin of pagination: a contribution of Aldus Manutius
３．学会等名 The Book in Transition, the East and the West（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 雪嶋宏一
２．発表標題 16世紀アントワープにおける近代的書物形態の発展について
３．学会等名 2021年度日本図書館情報学会春季研究集会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関